

一般社団法人 日本医療福祉建築協会 〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館
TEL:03-3453-9904 FAX:03-3453-7573 <https://www.jiha.jp>

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

昨年5月の理事会において会長に推挙していただき、就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

医療・福祉を取巻く環境は、ますます厳しくなり、主に施設計画を日ごろの活動対象とする私たち会員の活動もその厳しい波にさらされています。しばしば指摘される2025年問題はすぐ目の前ですし、社会保障費の増大への対応にも早急なアイデアが求められています。

ここ数年は病院完結型の医療から、地域を包括した保健医療福祉サービスへの転換が重要なテーマとして語られていますし、施設の再編統合もいたるところで推進されています。一方、医療の国際化としてインバウンド需要への対応や、医療サービス・医療機器のみならず病院丸ごとのアウトバウンドなどを国が推進していることも喫緊の課題です。これらに関するトピックスについては、「医療福祉建築フォーラム」や会誌「医療福祉建築」、さらには毎月の「研究会」「見学会」において適宜取上げ、会員の皆様にお届けしていますが、社会のスピードの速さに負けぬよう、時機を見て発信するの必要を感じています。

ところで、2011年に発生した東日本大震災以降も、16年の熊本地震、同年の鳥取県中部地震、昨年は6月の大阪府北部、9月には北海道胆振東部地震が発生しました。また、水害についても最近のものだけでも17年の九州北部豪雨、昨年の西日本豪雨といった大規模被害がありました。医療・福祉施設の被災についてはできる限りその記録を残し、またそこから得られる示唆を共有すべく活動も必要です。

さて、昨年の会誌に、ある病院長の論考が掲載され、以下のような記述がありました。「病院設計・建築に従事するものが医療現場の実態をあまり知らない。また、完成した病院が医療スタッフによってどのように運用され、さらに、患者にとって設計的に問題はなかったのかといった利用開始後の確認作業がほとんどなされていない」という批判です。さらに続けて「医療スタッフの意見は聞くが患者の意見は聞かず、完成後の病院運用に関しては、ほとんど関心が無いように見えた」。この執筆者はいくつかの病院建設に携わってこられた方なので、特定の設計者に対する感想を言っているのではなく、一般的な医療施設建設における技術者に対してのご意見なのです。これについては、いささかの反論もしたくなりますが、しかし、受手がその様に感じていることは事実なので、謙虚に耳を傾けたいと思います。一方、私たちの日常の業務や、協会での活動は決してこのような批判をされることではなく、当協会の定款に規定している通り、「保健、医療、福祉のサービスを提供する施設及び住宅の建築に関する知識の普及及び調査、研究の推進を図り、もって、その水準向上に努め、広く社会に貢献、寄与することを目的とする」活動を会員ともどもしています。これらをより広く社会に発信し、建築技術者の社会的役割と責任、および協会の活動を多くの方々に知っていただくことが必要だと感じています。

本年は、関連の学協会とますます連携し、医療・福祉に係る団体とのコミュニケーションをよくし、当協会の存在と活動状況を広く発信すべく努力してまいりたいと思います。

末筆ながら、会員の皆様のなご活躍を祈念いたします。

2019年 元旦

一般社団法人 日本医療福祉建築協会

会長 中山 茂樹